

「ネット銀行」と「ネットバンキング」

その相違点と使い分け方法とは？

ネット銀行とネットバンキングは、混同されやすいですがまったくの別物です。両者の相違点を中心に、上手な使い分け方法について紹介します。

木村会計事務所
公認会計士・税理士

木村 智 宏

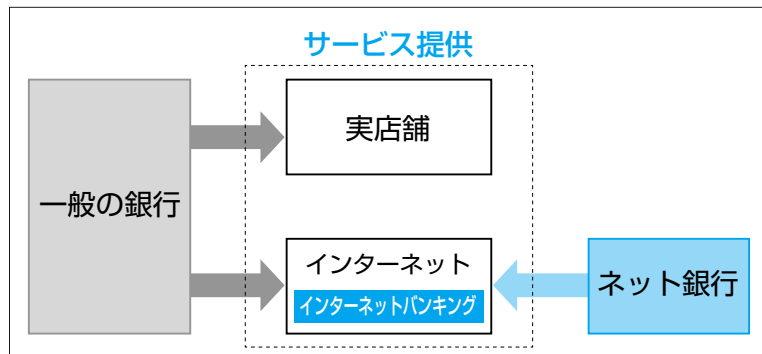
インターネットバンキングとネット銀行の違い

まずは、「インターネットバンキング」と「ネット銀行」の違いについて簡単に触れておきます。従前までは銀行で各種手続きを行なうためには実店舗に直接出向くのが主流でしたが、インターネットの普及、通信インフラの拡充、セキュリティ技術の確立などにより、銀行での各種手続きをインターネットを介して行なうサービスが生まれました。これが「インターネットバンキング」です。

現在ほとんどの銀行で利用することができ金融取引のサービスで、具体的には、①残高・明細確認、②総合振込・給与振込、③定期預金への預入・解約、④税金などの各種支払手続き、⑤口座名義人の情報設定（住所、利用限度額等）、⑥カードや通帳の紛失・破損時の利用停止などをオンライン上で行なうことができます。

やがて、新たな形態として、自社店舗やATMを持たずにインターネット上でのみサービスの提供を行なうネット専門の銀行が登場し、金利や手数料の有利さから多

図表1 インターネットバンキングとネット銀行の関係



くの顧客を集めるようになりました。これが「ネット銀行」です。つまり、インターネットバンキングとは、一般的な都市銀行、地方銀行、信用金庫、郵便局、ネット銀行などほとんどの金融機関で利用できる「インターネット」を介して行なうサービスの総称であり、ネット銀行とは、「インターネット」上での営業を専門としている銀行」のことをいいます（図表1）。

一般的な銀行と ネット銀行の相違点

では、都市銀行などの一般的な銀行とネット銀行では、利用者の立場からすると、どのような点が異なるのでしょうか。

① 実店舗

一般的な銀行には実店舗がありますが、ネット銀行は実店舗を備えるところは一部で、原則として実店舗はありません。

② ATM

一般的な銀行では、店舗のほか各地に設置されていますが、ネット銀行は店舗がないことから専用ATMがない場合が多く、コンビニなどの提携のATMを利用することになります。

③ 口座開設

一般的な銀行では、Webサイトやアプリからできますが、基本的には店頭窓口で手続きするのに対して、ネット銀行では原則としてWebサイトやアプリなどから行ないます。

④ 通帳

一般的な銀行では紙の通帳またはWeb通帳（インターネット上で管理する通帳）を選択すること

になります。ネット銀行では紙の通帳はなく、Webサイトやアプリで取引明細を確認することになります。

ネット銀行の メリット

次に、ネット銀行を利用するメリットを解説します。

ネット銀行は、一般的な銀行のように店舗を構え、そこに人を配置するコストがかからないため、運営コストの安さを活かした様々なメリットがあります。

① 金利が高く設定されている

ネット銀行は、一般的な銀行と比べて預金金利が高く設定されています。実店舗を持つコストが発生しない分、金利面で顧客に利益を還元しているのです。

② いつでもどこでも利用できる

一般的な銀行の営業時間は平日9～15時ですが、ネット銀行は原則24時間いつでも利用することができます。

インターネットが使ええる環境であればいつでも手続きできるため、使う時間を選びません。店舗に行く手間や手続き中の待ち時間が省けますので、忙しくて銀行や

ATMに足を運べないときでも空いた時間に利用できます。

③ 手数料が安くサービスが充実

ネット銀行は手数料が安いだけでなく、お得に利用できます（図表2）。これも、実店舗のコストが発生しないからこそのもメリットです。ネットショッピングやクレジッ

図表2 振込手数料の比較（他行宛）

一般的な銀行の他行への振込手数料

	窓口	ATM（現金）	ATM（カード）	ネットバンキング
3万円未満	594円	374円	209円	484円
3万円以上	770円	550円	330円	660円

ネット銀行の他行への振込手数料

	A銀行	B銀行	C銀行	D銀行
3万円未満	145円	160円	145円	150円
3万円以上	145円	160円	145円	229円

※一般的な銀行は代表的な都市銀行の例、ネット銀行は代表的な4行による一般的な振込手数料を想定

トカード利用で貯めたポイントで手数料を支払うことや取引ごとにポイントが貯まるサービスを提供しているネット銀行もあります。

④ スマホ・パソコンで完結

ネット銀行は、ほとんどのサービスをスマホ・パソコン上で完結できます。

家の近くに銀行やATMがない場合でもスマホ・パソコンから振込可能で、また海外にいるときでもインターネット環境さえあれば手続きが可能です。

⑤ 通帳記帳が不要

ネット銀行は紙の通帳はありませんが、取引履歴や残高はすべてネット上で確認することができます。常に最新の情報を知ることができます。

また、通帳記帳の手間もなく、盗難や紛失防止などの通帳管理の煩わしさもありません。

ネット銀行の デメリット

しかし、インターネット上でのサービス提供という特殊性によるデメリットもあります。

① 実店舗がない

一般的な銀行であれば、手続き

上でわからないことがある場合や、サービスの詳細について知りたい場合、窓口の行員に対面で質問や相談をすることができます。

しかし、ネット銀行では対面で質問や相談をすることができません。電話で問い合わせるか、自分で調べなければなりません。

② **ID・パスワードの自己管理**
ネット銀行はIDとパスワードで口座を管理しますが、これらは自己管理となるため、忘れた場合や入力を複数回間違えてアカウントロックが掛かってしまった場合には、自ら再発行の手続きを行なう必要があります。

また万が一、IDとパスワードを紛失したり、ハッキングされたりすると、個人情報流出や不正送金などのトラブルに巻き込まれる可能性があります。

③ **引落口座・振込口座に設定できないことがある**

一部のネット銀行は、公共料金や給与、保険料等の振込口座として指定できないことがあります。毎月の公共料金や給与、保険料等の振込みは口座振替とする場合が多く、口座振替に対応しない場合、別の口座やクレジットカード等を用意しなければなりません。

また、銀行融資を受ける際の振込口座としてネット銀行を指定できない場合もあります。

④ **ネットワーク障害発生時やメンテナンス時に利用できない**

ネット銀行は基本的に24時間利用できますが、定期的にシステムメンテナンスが入ります。ほとんどの場合は深夜の短時間で終了しますが、その間は各種手続きを行なうことができません。

また、利用しているネット回線で障害が発生した場合も、ネット銀行の機能を利用することができなくなります。

ネット銀行のインターネットバンキング

都市銀行などの一般的な銀行が提供するインターネットバンキングとネット銀行が提供するインターネットバンキングでは、基本的なサービス内容はほとんど変わりますが、利用者の立場からすると、次に挙げる違いがあります。

① 利用手数料

一般的な銀行でインターネットバンキングを利用する場合、個人での利用は無料ですが、法人や個人事業主口座として利用する場合

には月額料金が掛かります。一方でネット銀行の場合には、個人や法人、個人事業主口座として利用する月額料金は基本的に無料です（図表3）。

② 振込手数料

ネット銀行が提供するインターネットバンキングの振込手数料は、ネット銀行間でも金額は差別化されていますが、一般的な銀行のインターネットバンキングと比

図表3 インターネットバンキングの1か月にかかる経費の比較

●3万円以上の取引（他行）が月10件あった場合

名称	一般的な銀行	ネット銀行
月額料金	2,200円	0円
振込手数料	6,600円	1,700円
合計	8,800円	1,700円

※一般的な銀行は代表的な都市銀行の例、ネット銀行は代表的な4行の平均金額により試算

べれば図表3のように安く設定されています。

③ 海外への振込み・振替

一般的な銀行と比べると、ネット銀行では、海外の金融機関への振込みが未対応であったり、送金可能な国や通貨が制限されていたりする場合があります。

④ 利便性

操作性という点では、いずれもインターネット上で行なうので、大きな違いはありません。

しかし、普段から使用しているコンビニのATMやキャッシュレス決済への対応といった日常生活における利便性という点からすると、現時点では一般的な銀行のインターネットバンキングのほうが取引できるATMやキャッシュレス決済への対応数が多いです。

インターネットバンキングのメリット

一般的な銀行やネット銀行で提供しているインターネットバンキングは、いずれもインターネット上で手軽に行なえるメリットがあります。

① 時間の節約

インターネットバンキングは、

パソコンやスマホからいつでも利用できる、実際の店舗やATMに行ったり並んだりする時間を大幅に削減することができます。

② 取引手数料が割安

インターネットバンキングの取引手数料は、窓口で行なうよりも割安になります。

毎月発生する仕入先への支払い、給与振込などの手数料を年間で比較すれば、その差額は大きなものになります。

③ 経理の効率化

インターネットバンキングでは、入出金の取引記録をデータとしてダウンロードすることができ、これらのデータを会計ソフトに取り込むことで仕訳を効率的に行なえます。

会計ソフトによっては、インターネットバンキングと連携させることで、取引データを直接取り込み、自動で仕訳処理をしてくれるため、データの転記ミスや入力の手間を削減することができます。

インターネットバンキングのデメリット

しかし、インターネットバンキングを安全に利用するためには、

常にセキュリティ対策について自己管理が求められるデメリットもあります。

① ID・パスワードの管理・設定

ID・パスワードがあれば、本人以外であつても使用できてしまうリスクがあります。

② 詐欺やウイルス対策

フィッシング詐欺やウイルス感染などの手口が巧妙化しており、IDやパスワードなどが流出する危険に晒されています。

③ 使用環境にも注意が必要

要

外出先でフリーWi-Fiを利用する場合、端末に侵入されて情報を抜き取られるなどの被害に遭う可能性があります。

両者の上手な使い分け

インターネットバンキングとネット銀行の特徴はそれぞれ異なりますが、どちらが優れているというわけではありません。

利用目的に応じて、両者を併用して使い分けることをおすすめします。

図表4 一般的な銀行融資とネット銀行融資の比較

	一般的な銀行	ネット銀行
利用条件 *1	制限あり	制限は緩やか
金利（利率）	低金利	高金利
審査	厳格	比較的緩やか（AI審査）
必要書類	決算書・事業計画書等	原則不要 *2
借入手続き	来店必要・面談必要	来店不要・面談不要（Webで完結）
借入実行までの期間	1週間～1か月程度	最短で当日借入が可能

*一般的な銀行は代表的な都市銀行の例、ネット銀行は代表的な4行より抜粋

*1 業歴（2年以上）、所在地、直近決算期の状況（債務超過でない）、税金の納付状況等

*2 審査の過程で書類提出が必要になる場合もある

たとえば、毎月の定期的な振込みが多い場合や、日々の業務時間が足りないと感じている場合は、ネット銀行やインターネットバンキングを利用することで、コストや時間が節約できます。

一方で、実店舗で直接取引する必要がある場合や、窓口で直接相談したい場合は、一般的な銀行を利用すればよいでしょう。

また、銀行融資を受ける場合、

その状況によって使い分けることをおすすめします。

たとえば、時間的余裕があれば、利用条件や審査の厳しい一般的な銀行を選択することで、融資までの時間は掛かってしまいますが、低金利の融資を受けることができます。

一方で、急な資金需要が発生して時間的余裕がなければ、利用条件や審査が比較的緩いネット銀行を選択することで、金利負担は高くなってしまうますが、迅速な融資を受けることができます（図表4）。

ネット銀行は、口座を開設することでインターネットバンキングを無料で利用することができ、銀行融資における選択肢の幅も広がってくれることから、一般的な銀行と併用することによって、より多くのメリットを享受することができます。

たしかにデメリットもあります。自分の心がけや準備次第で解消できるものが多く、また、外出自粛やリモートワークの拡大により、現在の変わりつつある働き方にも適合するサービス形態です。で、1つ口座を持っておいて損はないでしょう。

きむら ともひろ 木村会計事務所代表。ITを駆使して複雑な経理・税務を簡単にすることをモットーに、中小企業の成長・発展をサポートする。